

日本災害医療
ロジスティクス研修

Training on Logistics in Disaster Medicine
in Iwate Medical University
Center for res...
training on c...
health servic...

岩手医科大学
災害時地域医療支援教育センター

主な内容	巻頭言	医学教育分野別評価受審を終えて 医学部長 佐藤 洋一
	特集	日本災害医療ロジスティクス研修～組織の枠を越えたロジ研修～
	トピックス	平成31年新年祝賀式が行われました
	募金状況報告	
	フリーページ	すこやかスポット薬学講座No.17 「糖と糖鎖のお話」
表紙写真：第6回日本災害医療ロジスティクス研修		

医学教育分野別評価受審を終えて

佐藤 洋一

医学部長



この度、一般社団法人日本医学教育機構（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）による医学部の教育評価を受けました。これは、「国際的基準に則って医育機関の質を保証しなければならない」という WHO の方針の下で、全世界的に進められている医育機関認証制度によるものです。また、文部科学省は大学教育の質保証に向けた認証評価制度として、大学ごとの機関別認証評価を行っておりますが、更に学部単位で分野別評価を受けるように指導を強化しております。このように国内外の施策が、第三者による「医育機関の評価」に向かっており、本学もそれに対応したわけであります。この評価を受けて適合とされますと、Foundation for Advancement of International Medical Education and Research: FAIMER に登録され、国際的に医育機関として認められます。言い替えればこの評価を受審しなければ、あるいは不適合と判定されてしまうと、医育機関としての存在意義を国際的に失ってしまうこととなります。もともとこの医学教育評価制度は、発展途上国の医学部出身者が北米へ流入するのを防ぐために行われているものですし、日本の医学教育は質の高い医師を輩出してきた実績がありますから、基本的に不適合はありえないのですが、医学教育がきちんと統制をとって行われているかどうかを改めて問われることになりました。

受審するにあたり、大学内の規程を見直し、委員会を整備し、教育成果（アウトカム）を卒業時コンピテンシー[※]として定め、そこに至る

目標値を可視化し、カリキュラムと整合性をとる、等のことを急ピッチで行って参りました。その際には、本学の使命と理念である「厚生済民」と「誠の人間育成」を常に念頭においておくことで、煩雑な作業に一本筋を通すことができたように思います。医学部教職員ならびに他学部や教養教育センターの皆様の一丸となった協力の下で、根拠資料を揃えて自己点検評価書を書き上げたのが8月末で、それをもとに11月26日から30日にかけて実地調査を受けました。実地調査では、講義や実習の見学に加え、教員のみならず学生や職員へのインタビューもあり、詳細にわたった質問を受けました。講評においては学生による教育プログラムへの参加を公的に担保することを求められ、また卒前卒後のコンピテンシーの一貫性をとるように指示を受けました。その他、細々と多方面にわたって提言を受けました。正式な評価は後ほど送られてきますが、すぐにでも対応できることは早速始めなければならないと思っております。

ともすればこうした評価は、受審することで終了、と思われがちですが、実は最も大切なことはこの評価をもとに自律的に質の向上を図ることです。不断の質向上を行わない大学はつぶれることもありうる、との認識をもって指摘を受けた事に真摯に対応する必要があると思っております。

末筆ながら、今回の受審にあたっては、高邁な大学設置理念と使命を明示された学祖三田俊次郎先生と三田定則先生に深甚なる敬意と感謝を申し述べたいと存じます。

※コンピテンシー：単なる知識や能力だけでなく、状況に応じ複雑な要求（課題）に対応することができる力・行動特性

日本医学教育機構による医学部評価の概略

① 医学部による自己点検・評価

日本医学教育機構による医学部評価を受けようとする医学部（以下、受審医学部）は、同機構の定める評価基準に基づいて自己点検評価を行い、「自己点検報告書」に根拠となる「資料集」を添え、指定期日までに同機構に提出します。

② 書面審査

同機構では提出された「自己点検報告書」と「資料集」を評価委員が精査し、必要により、質問事項と追加資料請求を受審医学部に提示します。

③ 実地調査

同機構が委嘱する評価委員が受審医学部に対して5日間の訪問調査を行います。ここでは、評価基準の領域別の討議、講義・実習等の視察、講義室・実習室・図書館・シミュレーション施設等の見学、学生・若手教員・研修医等との面談が行われます。実地調査の結果は、最終日に各委員から講評で概略が報告され、その後、評価報告書が実施医学部に郵送されます。

④ 異議申し立て

評価報告書に異議のある時は、一定期間内に同機構に申し立てることができます。

⑤ 最終報告書の送付

最終報告書の結果を受けて、受審医学部では改善計画を策定し、ホームページで公開します。

⑥ 改善進捗状況の報告

同機構からの評価報告書に基づき、受審医学部は改善実施状況をホームページに公開します。

⑦ 継続的改良

同機構からの報告書だけでなく、医学部は自己点検評価を繰り返し、継続的な医学教育プログラムの改良を行い、次回の認定評価に備えます（概ね7年周期）。

<日本医学教育機構ホームページをもとに作成>

実地調査開会式の様子



挨拶する祖父江学長



佐藤医学部長による医学部の概要説明



評価者による挨拶

岩手医科大学 医学部卒業時コンピテンシー

「誠の人間を育成する」という本学の理念を達成するために本学医学部では、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）に掲げる、学生が卒業時に習得すべき8つの能力（コンピテンシー）を次のとおり定めています。

I. 医療倫理

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に全人的人間性を持ち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができる。

II. プロフェッショナリズム

岩手医科大学医学部の学生は、幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続けることができる。

III. 医療安全

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域に安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知識を身につけ、医療の質の向上に努めることができる。

IV. 医学的知識

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に診療の場において、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を習得し、疾患の予防、診断、治療に活用できる。

V. 診療技術・患者ケア

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、誠の医師として患者に接し、的確な診療を実践できる。

VI. コミュニケーションとチーム医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができる。

VII. 社会における医療の実践

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に社会保障制度および法律に関する知識を有し、国内外の保健医療に貢献できる。

VIII. 地域医療

岩手医科大学医学部の学生は、卒業時に地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学を実践できる。



特集

日本災害医療ロジスティクス研修 ～組織の枠を越えたロジ研修～

災害時地域医療支援教育センター

今回の特集では、昨年10月に矢巾キャンパスにおいて開催された日本最大級の災害医療ロジスティクス研修である「第6回日本災害医療ロジスティクス研修」の概要や当日の研修の様子について紹介します。

■ 研修概要

2018年10月20日（土）～23日（火）の会期で本学主催の第6回日本災害医療ロジスティクス研修が開催されました。受講者は60名、講師も入れると全国各地から総勢120名以上が参加しました。メイン会場を矢巾キャンパスの災害時地域医療支援教育センターとし、その他の会場として岩手県内各地の施設にご協力いただき、今年も大変有意義な研修になりました。

この研修は東日本大震災を契機に平成25年に始まった研修です。東日本大震災の災害医療活動においてロジスティクス*の脆弱性が指摘されました。そのことを受けて実際に現場で使うロジスティクス能力を強化することがこの研修の目的です。具体的には、右記の項目を獲得目標に掲げています。

- 1) ロジスティクスの基礎を習得する
・派遣目的地までの円滑な到達
・衣食住の確保
- 2) 各拠点での本部立ち上げ本部内におけるロジスティクスの役割を理解する
・各拠点でのカウンターパート（被災側と支援側のペアにおける相手方）とのコミュニケーション
・情報伝達手段の構築および通信訓練
・情報の集約と活用
- 3) 多組織間の連携について理解する
・各組織特有の手法などについて理解
・多組織間の協働方法の検討

※ロジスティクス：一般的には輸送や物流を表す。災害医療においては情報通信や衣食住、資源の確保など医療活動を下支えするあらゆる事をさす。

■ 研修内容



この研修の最大の特徴は、研修3日目および4日目に実際に東日本大震災で被災した岩手県沿岸部の保健所や病院、教育機関などに泊まりこみで災害対応をする実践研修です。仮想通行止め情報を分析しながら目的地まで到達し、現地でカウンターパートと調整しながら本部を設置運営します。その際には衛星電話などの通信機器をいかに効果的に活用できるかも重要です。また現地で当時を知る職員にご対応いただくことも多々あり、東日本大震災の被災地でより実災害に近いトレーニングができるこの環境はこのうえないです。

最終日には研修全体の総括も兼ねた報告会・ディスカッションを実施します。今回の報告会・ディスカッションにおいては、例年同様さまざまなロジスティクスに関する課題を共有できたことに加え、今年度の実災害、大阪府北部地震や西日本豪雨、北海道胆振東部地震でのケースも踏まえて活発な意見交換がなされました。

平成31年新年祝賀式が行われました

1月4日（金）、創立60周年記念館8階研修室において、平成31年の新年祝賀式が来賓、教職員約200名の出席のもと行われました。

小川理事長は年頭の挨拶で「附属病院移転事業の完遂に向け、本学の使命を自覚し、英知を結集し挑んでいきたい」と述べました。



小川理事長による年頭の挨拶



会場の様子

その後、ラウンジに場所を移し懇親会が行われました。祖父江学長から乾杯のご発声があり、教職員全員が一致団結して附属病院移転事業の成功に向け取り組んでいくことを誓いました。



祖父江学長による乾杯

平成31年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験が行われました

平成31年度岩手医科大学入学試験は、1月23日（水）に医学部一般一次試験、2月1日（金）・2日（土）に医学部一般二次試験、2月8日（金）に歯学部一般前期試験・センター試験利用入試（前期）及び薬学部一般前期試験・センター試験利用入試（前期）、2月12日（火）に看護学部一般前期試験が行われました。

志願状況は、医学部一般が2,951名（前年度比-399名）、歯学部一般前期・センター試験利用入試（前期）が113名（前年度比+44名）、薬学部一般前期・センター試験利用入試（前期）が138名（前年度比-15名）、看護学部一般前期試験が169名（前年度比-38名）となりました。



医学部一般一次試験（東京会場）

平成30年度高度看護研修センター認定看護師教育課程（緩和ケア分野）修了式が行われました

1月25日（金）、創立60周年記念館10階会議室において、平成30年度高度看護研修センター修了式が行われ、認定看護師教育課程（緩和ケア分野）の研修生11名に修了証書が授与されました。

式では、寺山センター長から「この晴れの日を新たな出発点として、各自の臨床現場において、チームの重要な一員としてご活躍いただきたい」と激励の挨拶がありました。また、修了生を代表して東北医科薬科大学若林病院の佐々木悠希さん（写真）は「培った専門的な知識と技術を基にチームの一員として、その人にとっての最善の看護を提供していきたい」と力強く決意を述べました。



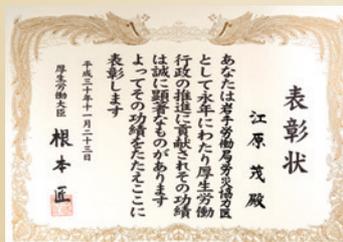


放射線医学講座 江原 茂 教授が厚生労働大臣表彰（労働基準行政関係功労者）を受賞しました

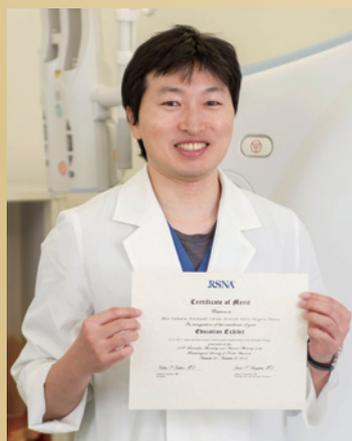
放射線医学講座・江原茂教授は平成30年度労働基準行政関係功労者に対する厚生労働大臣表彰を受賞されました。この表彰は、労働行政にかかる施策の推進等に顕著な功績が認められる者に対し、厚生労働大臣表彰を行い、その功績をたたえることを目的としています。

江原教授は長きにわたり、岩手労働局労災協力医として労災補償の迅速・適正な給付の推進など労働基準行政の各施策の推進に大きく貢献したことが高く評価されました。

12月18日（火）に、盛岡第2合同庁舎岩手労働局5階会議室にて表彰式が行われ、永田有岩手労働局長より、功労に対する敬意と感謝とともに表彰状が授与されました。



放射線医学講座 田村 明生 助教がRSNA2018(第104回北米放射線学会)において、Certification of Meritを受賞しました



この度、シカゴにて開催されたRSNA2018（第104回北米放射線学会）において演題「Cystic Pancreatic Lesions: Understanding Imaging Features and Pathologic Findings—膵嚢胞性疾患：病理所見との対比による画像所見の理解—」が、Certification of Meritを受賞したことを光栄に思います。我々放射線科医は日常的に膵嚢胞性疾患に遭遇しますが、画像スペクトラムは多彩で、診断に踏み込むことは時に難渋します。本邦では膵嚢胞性疾患に対するEUS-FNA（組織採取の一方法）が回避される傾向があるため、CT、MRI、超音波による診断が非常に重要となります。今回、各モダリティの画像所見の成り立ちを病理所見から理解できるような構成を心がけてプレゼンテーションを行いました。

当院では外科医、内科医、病理医、放射線科医による定例の胆膵ミーティングによって、術前・術後の症例をとことん議論しており、その中で得た知見が今回のプレゼンテーションには反映されています。我々の日常診療の成果がこのように評価され、大変うれしく思います。胆膵ミーティンググループの外科、消化器内科、病理診断科、放射線科の先生方、特に画像提供いただいた消化器内科・小穴修平先生、ご指導いただいた病理診断科・石田和之先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

（文責：田村 明生）

中央放射線部 太田 佳孝 診療放射線技師がRSNA2018(第104回北米放射線学会)において、Certification of Meritを受賞しました

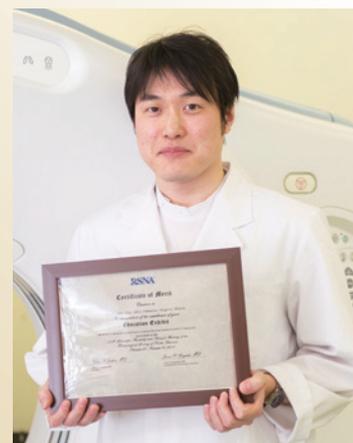
この度シカゴにて開催されたRSNA2018（第104回北米放射線学会）におきまして、演題「Advanced imaging protocol to improve image quality of Carotid CT angiography」がCertificate of Meritを受賞しました。

本演題は頸動脈のCT angiographyを対象に画質向上を目的とした研究であり、診療放射線技師の立場から技術的問題点を克服し、臨床的診断価値の向上を実現している内容です。

本学会は放射線領域における世界最大の学会です。その学会にて当院のCT画像が国際的に評価された事を大変光栄に思います。

これまでご指導頂きました放射線医学講座・田村明生先生、全面協力頂いた村中健太技師長、鎌田雅義主任はじめ日常検査で協力いただいている看護部の皆様、中央放射線部の皆様に感謝致します。

（文責：太田 佳孝）



岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第26回目の御芳名紹介です。(平成30年11月1日～平成30年12月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (22件)

<10,000,000>

医療法人 佐々木皮膚科 (岩手県盛岡市)

<5,000,000>

医療法人 勉仁会 中垣病院 (北海道札幌市)

<1,500,000>

圭陵会 宮城県石巻支部 (宮城県石巻市)

<1,350,000>

昭和四十三年卒 オーイ・ゲンキ会 (医17)

<1,000,000>

医療法人 天音会 おいかわ内科クリニック (岩手県盛岡市)

医療法人 久幸会 (秋田県秋田市)

医療法人社団 至誠会 大泉胃腸科内科クリニック (山形県山形市)

医療法人社団 泰生会 堀口クリニック (北海道釧路市)

株式会社 アキヤマ (岩手県二戸郡)

<200,000>

株式会社 アイシーエス (岩手県盛岡市)

<100,000>

医療法人 颯桜会 たぐち脳神経外科クリニック (岩手県盛岡市)

有限会社 平和圧送 (岩手県盛岡市)

PSP 株式会社 (東京都港区)

医療法人社団 はねだ内科クリニック (北海道札幌市)

医療法人 阿部耳鼻咽喉科医院 (秋田県横手市)

<御芳名のみ掲載>

医療法人社団 浅井耳鼻咽喉科医院 (神奈川県横浜市)

一圭会 (医23)

圭陵会 宮古支部 (岩手県宮古市)

東杜産業 株式会社 (岩手県滝沢市)

医療法人 きたかみ腎クリニック (岩手県北上市)

医療法人 愛ランド (沖縄県石垣市)

株式会社 長谷川綿行 (愛知県北名古屋市)

(順不同、敬称略)

●個人 (177件)

<5,000,000>

佐柄 英人 (父母)

<1,200,000>

中澤 仁 (医17)

<1,000,000>

及川 慶一 (医23)

稲庭 千弥子 (父母)

岡田 健男 (医15)

平野 三千代 (他19)

加藤 壽太郎 (医15)

平野 春人 (医35)

山田 わか子 (医17)

大森 浩明 (医34)

斎藤 和好 (名誉教授)

小川 郁 (父母)

葛 但寛 (医27)

金子 克 (名誉教授)

寺崎 公二 (医34)

小室 淳 (医23)

<500,000>

本橋 弘行 (医7)

向井田 貞雄 (医8)

桂 泰鴻 (医21)

<300,000>

山下 和夫 (父母)

石川 洋子 (医18)

海野 透理 (父母)

<200,000>

木村 サナ (元教職員)

中込 和雄 (歯10)

滝 健児 (父母)

川村 秀司 (医35)

金子 靖典 (医48)

<150,000>

村崎 保夫 (医20)

<100,000>

室岡 玄洋 (医41)

松崎 徹 (父母)

小野寺 勲 (役員)

齋藤 正信 (医24)

吉田 浩昭 (医36)

岩田 千尋 (医20)

河原 優 (父母)

福原 加壽子 (父母)

伊藤 雅明 (父母)

本田 信也 (医43)

安住 倬 (専15)

荒川 直志 (医35)

島山 昇 (医22)

国分 令子 (医23)

大泉 早苗 (医11)

<10,000>

山本 政秀 (医39)

熊谷 章子 (教職員)

入江 雅之 (歯13)

鎌田 和永 (父母)

田中 俊 (歯31)

王 挺 (教職員)

千葉 千恵子 (父母)

塩野入 正一 (父母)

三上 弘之 (歯3)

三上 淑子 (歯4)

西村 孝志 (父母)

細谷地 司 (父母)

西本 幸代 (医51)

鈴木 正典 (父母)

園部 伸 (父母)

紺野 孝広 (父母)

紺野 真秀 (父母)

菅原 清孝 (父母)

池田 健 (歯5)

<御芳名のみ掲載>

小原 紀彰 (医17)

長田 純一 (歯11)

長田 公子 (歯13)

櫻井 伴子 (父母)

山田 行夫 (医19)

高橋 俊明 (医34)

金子 宗義 (医46)

増田 正純 (父母)

佐々木 太門 (医15)

鎌田 仁 (歯32)

鎌田 桂 (医20)

淵向 透 (医31)

前田 厚志 (一般)

谷藤 泰寛 (医16)

江本 政広 (父母)

江本 智子 (父母)

青山 和義 (医20)

田口 圭樹 (医28)

藤島 幹彦 (他35)

吉田 達朗 (教職員)

坂 正毅 (医16)	山下 榮敏 (医22)	大類 広 (医32)	伊藤 玲 (歯26)
井上 和子 (元教職員)	小野寺 正二 (教職員)	齋藤 真 (歯21)	山口 智 (医36)
平井 晃 (医31)	小守林 靖一 (教職員)	太田 直喜 (父母)	塚原 央之 (医52)
大沢 久人 (名誉教授)	松 智彦 (父母)	今野 紀昭 (父母)	佐藤 朗 (医30)
許山 厚 (医23)	佐野 公昭 (医33)	遠藤 豪一 (父母)	小笠原 聡 (医40)
岩間 充 (他37)	黒田 貴顕 (医52)	佐藤 方信 (名誉教授)	白岩 和香苗 (医49)
九嶋 理 (医22)	小守林 尚之 (歯1)	千葉 昭夫 (父母)	古澤 健 (父母)
西田 陽 (父母)	鷲巢 元郎 (父母)	佐藤 康満 (父母)	藤田 十佐 (父母)
入江 太郎 (教職員)	新沼 廣幸 (医41)	大澤 憲二 (元教職員)	榊 政光 (父母)
松下 敬子 (医29)	亀井 淳 (教職員)	藤田 浩一郎 (父母)	太田 由美子 (父母)
佐藤 直孝 (父母)	原田 裕 (父母)	坂下 伸夫 (他64)	柴田 誠 (父母)
八嶋 輝紀 (医8)	小原 三保子 (元教職員)	馬場 長 (教職員)	多田 澄雄 (父母)
上田 克文 (父母)	椿田 重彦 (医27)	漆久保 潔 (医26)	佐藤 忠雄 (父母)
大橋 靖 (元教職員)	椿田 健介 (歯41)	結城 和生 (歯2)	杉藤 正典 (父母)
金田 泰一 (医39)	菊池 昇 (専16)	西村 守 (父母)	齊藤 慎二 (教職員)
水野 紹夫 (医34)	杉山 晶規 (教職員)	池田 敏 (父母)	斎藤 聡 (歯12)
相田 重光 (医44)	長田 斎 (歯10)	大江 徹 (父母)	須藤 英子 (父母)
須貝 栄 (父母)	小笠原 正人 (教職員)	坪井 将洋 (歯35)	里舘 均 (医44)
田澤 秀樹 (医36)	佐藤 譲 (他53)	長門 浩一 (父母)	遠藤 直樹 (医12)
戸田 和則 (父母)	中谷 敦幾 (父母)	本間 静佳 (医67)	(順不同、敬称略)
樋口 太郎 (医37)	深沢 裕文 (歯7)	森 恵悦 (父母)	
吉田 善広 (父母)	木暮 淳志 (父母)	宮田 成弘 (父母)	
前門戸 任 (教職員)			
増戸 尚 (医20)			
笹森 史朗 (医32)			
小林 哲也 (父母)			
吉野 裕之 (他34)			
小林 仁 (医30)			
阿部 俊和 (医33)			
山敷 宏正 (医38)			
増田 友之 (教職員)			
三宅 純 (医25)			

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	875	546,595,089
在 学 生 ご 父 母	686	328,980,000
役 員 ・ 名 譽 教 授	81	100,380,000
教 職 員	210	28,632,000
一 般	92	31,340,000
法 人 ・ 団 体	298	909,724,000
合 計	2,242	1,945,651,089

(平成 30 年 12 月 31 日現在)

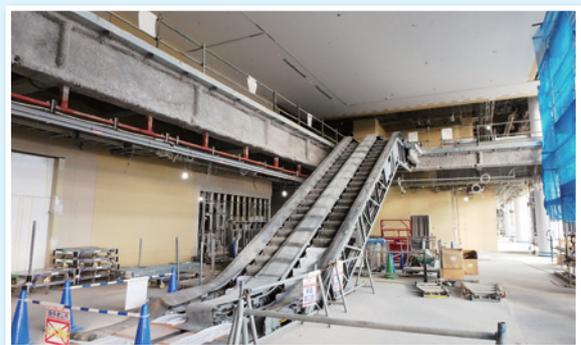
矢巾新病院建設工事進捗状況

矢巾新病院の建設工事は、内装工事が着々と進んでおり、1階吹抜けラウンジにはエスカレーターが設置されました。本学ホームページでは、工事の進捗状況を掲載しておりますので是非ご覧ください。

「岩手医科大学附属病院 移転計画ブログ」 <https://iten-iwate-med.blogspot.com/>



< ドローンで南東側から撮影 >



< 1階吹抜けラウンジ >

撮影日：平成 31 年 1 月 24 日

シリーズ 職場めぐり

整形外科外来

整形外科外来は、土井田稔教授ほか医師23名、看護師6名、事務員4名で、曜日毎の専門外来による診療体制を整えています。大学病院として高度な先進医療を提供するため、地域の病院と連携して紹介いただいた患者さんの診療にあたっています。また、リハビリテーションは、入院早期あるいは術後早期から行う件数が増えています。ハイリスクな状態でも安全にリハビリテーションが行われるように、リハビリテーション室に看護師1名を配置して医師や療法士と協働し、患者支援を行っています。

近年、高齢化に伴い、疼痛や機能障害を抱える患者さんが増加しています。また、運動器疾患はQOL (quality of life) を著しく低下させ、患者さんやご家族の生活に直結します。私たちは、患者さんの暮らしの質を維持するために

患者さんが生活者の視点で必要とされることを考え、在宅療養支援に向けた外来看護の提供に努めております。

(主任看護師 遠藤 恵美子)



図書館事務室

図書館事務室は、寺山靖夫館長(医学部内科学講座神経内科・老年科分野教授)、藤井勲分館長(薬学部薬科学講座天然物化学分野教授)の下、内丸本館、矢巾分館併せて職員6名、臨時職員12名で構成されております。業務は、カウンター対応などの運用係、図書・雑誌の選書、発注から目録作成、受入作業を行なう図書係・雑誌係、学外との相互協力活動を担う相互貸借係、庶務・経理系の5つに大別されます。

医療系総合大学の知的基盤として、診療ガイドライン作成のための文献検索や、講義・実習など専門性の高い業務が求められる中、現在2名が日本医学図書館協会認定資格

「ヘルスサイエンス情報専門員」(上級・初級)を取得するなど、日々業務を遂行しながら、教育、研究、臨床支援を維持・継続できるよう研鑽に努めております。

各種ガイダンスや館内ツアー、企画展示のほか、イベントやメールマガジンなどもご用意しておりますので、お気軽にご利用ください。

(室長補佐 川崎 かおる)



内丸本館



矢巾分館

歯科医療センター事務室

歯科医療センター事務室は、事務員6名で構成されており、新患・再来・各診療科受付、会計業務は(株)こずかたサービスに業務委託をしております。

私たちの事務室は、歯科医療センターの管理運営に関する業務や、医事業務・歯科医師卒後臨床研修センターの管理運営業務を主に行っており、歯科医師や歯科衛生士、歯科技工士、看護師、薬剤師、放射線技師等のスタッフと連携を図り日々の業務を遂行しております。

9月に開院する矢巾新病院・内丸メディカルセンターにおいての歯科運営はもちろんのこと、近年重要視されている医科歯科連携がよりスムーズに行えるよう他部署との連携を密にし、事務室一丸となり業務に取り組んでまいります。

なお、当センターでは、月・水・金の診療時間を18時

まで延長しておりますので、ぜひご利用下さい。

(係長 内坪 寿真)



理事会報告（12月定例－12月17日開催）

- | | |
|--|---|
| <p>1. 附属病院長の選任について
附属病院長 小笠原 邦昭（再任）
（任期 平成31年4月1日から3年間）</p> <p>2. 教員の人事について
医学部放射線医学講座 教授
吉岡 邦浩（現 同講座 特任教授）
（発令年月日 平成31年4月1日付）</p> | <p>3. 組織規程の一部改正について
附属病院移転に伴い、仮称としていた内丸メディカルセンターの名称及び同センターの設置について正式に承認。また、同センターにセンター長を配置することとして所要の改正を承認。
（施行年月日 平成31年1月1日 但し、内丸メディカルセンターに係る事項については、同年9月21日）</p> <p>4. 花巻温泉病院薬局土地の買戻し及び賃貸借について</p> |
|--|---|

行事案内

- | | |
|---|--|
| <p>●平成30年度岩手医科大学・岩手看護短期大学合同卒業式</p> <p>日 時：平成31年3月8日（金）
午前10時から</p> <p>会 場：岩手県民会館 大ホール</p> | <p>●平成30年度岩手医科大学医療専門学校卒業式</p> <p>日 時：平成31年3月12日（火）
午前10時から</p> <p>会 場：歯学部4階 講堂</p> |
|---|--|

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	藤村 尚子
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

特集の日本災害医療ロジスティクス研修は第6回となり、研修内容はより詳しくご紹介できたと思います。特に写真からは緊張感が伝わってくると感じました。起こらなくていい災害ですが、万が一のために、医療に関わる様々な職種が一緒になり災害に備える事が重要であることを再認識しました。東日本大震災、時間が過ぎても忘れず前を向いて進んでいきたいですね。

（編集委員 武藤 千恵子）

岩手医科大学報 第509号

発行年月日 平成31年2月28日
発行 学校法人岩手医科大学
編集委員長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット薬学講座



病態薬理学講座臨床医化学分野 教授 那谷 耕司

糖と糖鎖のお話

糖と言えば、エネルギー源としての糖、ブドウ糖（グルコース）をイメージされると思います。最近では悪者扱いされることが多いグルコースですが、生命にとっては最も重要なエネルギー源です。ところが、体の中にはエネルギーとは関係のない、体を構成する成分としての糖、糖鎖が存在しています。その代表がABO式血液型を決めている糖鎖です。O型の人赤血球の表面には4つの糖が繋がった糖鎖が存在しており、その糖鎖にA型ではN-アセチルガラクトサミンという糖が、B型ではガラクトースという糖が結合することでABO式の血液型を作り出しています。

血液中のグルコースの濃度は、膵臓に存在するβ細胞で合成、分泌されるインスリンというホルモンによって調節されています。臨床医化学分野では高橋巖助教が中心となって、N-アセチルグルコサミンとグルクロン酸という糖が200個程度交互につながっているヘパラン硫酸という糖鎖がコアタンパク質に結合したプロテオグリカンと呼ばれている複合糖質（図1）とβ細胞の機能との関連について研究を進めています。

高橋助教は、ヘパラン硫酸がβ細胞に存在していることを初めて見つけました（図2）。そこで、こ

のヘパラン硫酸を合成するEXTL3という酵素の遺伝子を欠失させたマウスを作製したところ、β細胞の発生が遅れることがわかりました。また、EXTL3遺伝子を欠失したマウスではインスリンの分泌が低下しており、糖尿病の一步手前の耐糖能異常という状態になることがわかりました。さらに研究を進めたところ、プロテオグリカンを構成しているコアタンパク質のなかでもシンデカンファミリーに属するシンデカン4と呼ばれている膜結合型のコアタンパク質がβ細胞のインスリン分泌に関連していることがわかってきました（図1）。シンデカン4の遺伝子を欠失させたマウスでは、EXTL3遺伝子を欠失させたマウスと同様にインスリンの分泌が低下しており、耐糖能異常が生じました。培養細胞を使った実験では、シンデカン4遺伝子の発現が上昇するとグルコースに応答したインスリンの分泌が亢進することがわかっています。薬物の投与などにより体の中でシンデカン4遺伝子の発現をコントロールすることができれば、新たな糖尿病治療法の開発につながる可能性もあります。

以上、糖：グルコースと、糖鎖：ヘパラン硫酸プロテオグリカンのお話でした。

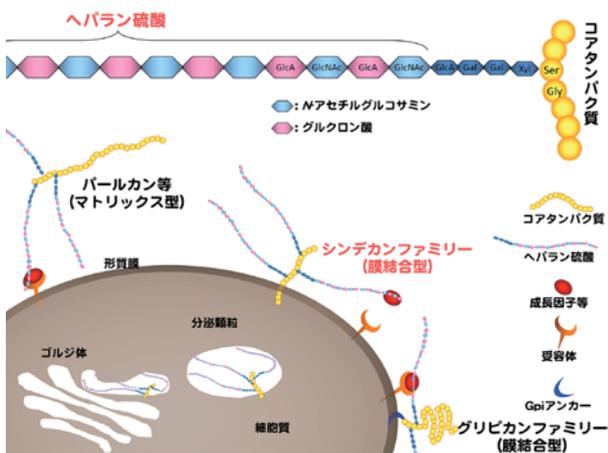


図1. ヘパラン硫酸プロテオグリカンとコアタンパク質

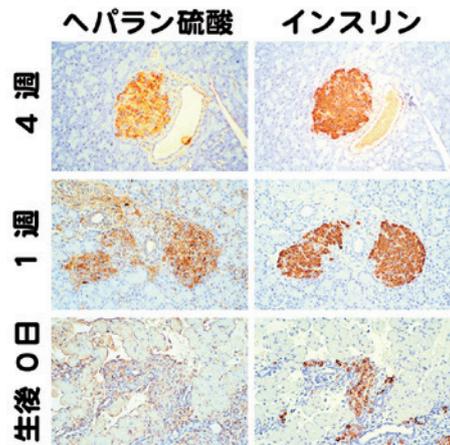


図2. マウス膵臓の免疫染色

※生後直後、1週、4週の膵臓をヘパラン硫酸およびインスリンの抗体で染色した